

牛久：学校周辺に見る自然

第11号 牛久二中

2012年6月2日発行

< トンボの季節が始まりました。 >

季節は、春から初夏へ。さまざまな種類のトンボやチョウが飛び交い始めています。そんな今回は、5/31日に牛久二中のビオトープで見た、面白いトンボの紹介です。



その名の通り、腹の幅が広く、ずんぐりとしたハラビロトンボ。左がオスで、右がメス。



「体がまっ黒なトンボが、群れ飛んでいる！」
と思い、近づいてよく見ると、腹部の横幅がずいぶんと広い、ずんぐりとしたトンボでした。その名も、「ハラビロトンボ」。上の写真、左が雄、右が雌ですが、実は、羽化して間もない未成熟の雄は、雌によく似て、黄色の体に黒い斑があります。それが成熟するにしたがって、左の写真のようにしだいに体色が黒くなっていき、ついには、翅（はね）以外まっ黒になり、さらには背中に青白い粉が吹いてくるのです。これ程までに体色が変化するトンボは、珍しいのではないのでしょうか？未成熟の雄と雌は、雄では「尾部付属器：おぶふぞくき」とよばれ、連結交尾をするときに雌をおさえつける、尾の先端の付属器が発達していることで見分けられます。ヨシやガマなど、「挺水植物：ていすいしょくぶつ」とよばれ、水中に根を張り、下部の茎や葉は水中に沈むけれど上部は水上に出ている植物が茂っているような湿地や沼にみられ、夜間に羽化して朝に飛び立つそうです。【理科支援員：宮内】



← オス(左)とメス(右)の尾部。オスでは、交尾のときにメスをおさえつける尾部付属器が発達する。

↑ 成熟するにしたがって、オスの体色は黒くなっていき、背中に青白い粉を吹いてくる。